

11月は児童虐待防止推進月間です



■保護者の体罰禁止が法定化

令和元年6月に児童福祉法の改正により体罰が許されないものであることが法定化され、令和2年4月1日から施行されました。

■なぜ体罰や暴言をしてはいけないのか？

体罰等が子どもの成長や発達に悪影響を与えることは、科学的にも明らかになっており「しつけ」と称した暴力などを含め、体罰等が繰り返されると、心身にさまざまな悪影響が生じる可能性があることが報告されています。そうは言っても、子育てでイライラして、手が出そうな時はあるものです。

■子育ての具体的なポイント

- ①子どもの気持ちや考えに耳を傾けましょう。
- ②「言うことを聞かない」にもいろいろな理由があります。
- ③子どもの成長・発達によってできることとできないことがあります。
- ④子どもの状況に応じて、身の回りの環境を整えてみましょう。
- ⑤注意の方向を変えたり、子どものやる気に働きかけてみましょう。
- ⑥良いこと、できていることを具体的に褒めましょう。

■保護者自身の工夫のポイント

- ①否定的な感情が生じたときには、まずそういう気持ちに気づき、認めることが大切です。
- ②自分の時間や心に余裕がないときは、深呼吸して気持ちを落ち着け、ゆっくり5秒数えたり、窓を開けて風にあたって気分転換しましょう。
- ③周囲の力を借りると解決することもあります。勇気をもって家族や友達、保健師等にSOSを出しましょう。また、ファミリー・サポート・センターをなどの子育て支援サービスを有効に活用しましょう。

虐待かもと思ったら

児童相談所虐待対応
ダイヤル(通話料無料)

いちやく
189へ

最寄りの児童相談所(釧根管内は釧路児童相談所)へつながります。通告、相談は匿名で行うことができます。

問合せ/こども・子育て担当 (内線1313)

消防署から



火災を未然に防ぐポイント

- 布団、カーテン等の燃えやすい物のそばで、暖房器具を使用しない。
- 暖房器具の上や周囲に洗濯物をつるさない。
- 外出時、就寝時にはできるだけ暖房器具の電源を切る。
- まきや石炭ストーブは、煙突内にすすやタールが溜まるので定期的に清掃する。
- 故障した器具や配線の修理は自分で行わず専門業者に依頼する。
- 燃料の補給は、確実に消火しているのを確かめてから行う。

11月に入り、本格的な寒さを感じる季節となりました。すでに使用している方も多いと思いますが、暖房器具は誤った方法で使用すると火災発生の原因となりますので、いま一度、火の元の確認と点検をお願いします。



冬期間の子牛の暖房としてハッチ等に設置している作業用投光器やヒーターが落下して、敷きわらが燃えて発生する火災が過去に何度も起きています。ヒーターが落下しないように確実に固定するなどして、十分に注意してください。

また、牛舎内はホコリが溜まりやすく、湿気も多いため電気器具やコンセント類から出火しやすい環境です。定期的に点検や清掃を実施するようお願いいたします。

問合せ/予防課 TEL 75-2200

心筋梗塞について

突然生じた胸の痛みが続く場合は心筋梗塞の可能性があります。呼吸苦や冷汗を伴い、痛みの広がり具合から胃や肩の病気と間違ふことがありますので、これまでに感じたことのないような胸の痛みが生じた場合には救急車の要請、医療機関の受診を早期に行ってください。(救急係 TEL 75-0366)

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果について

学校には、新学習指導要領に基づく「社会に開かれた教育課程」の下「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して、児童生徒の資質や能力を育成することが求められています。

将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちに、自らの人生を切り開き生涯を生き抜く力を培うために、今回の結果も重視しながら本町教育のさらなる充実を図ります。

1 調査の概要

- (1)実施日 5月27日(休)
- (2)実施学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3)内 容 ①教科に関する調査 国語、算数・数学
②生活習慣や学習環境などの状況に関する質問紙調査
- (4)目 的 学校の学習内容や方法、児童生徒の学習状況等の改善に役立てます。
- (5)留 意 点 ①調査結果は「学力」の一部であり、学校における教育活動の一側面です。
②全国の平均正答率等との比較により、序列化や過度の競争をあおるものではありません。

2 教科に関する調査結果

(1)小学校 平均正答率

	国語	算数
別海町	全国よりやや低く 全道と同程度	全国・全道より 低い
全国	64.7%	70.2%
全道	63.0%	67.0%

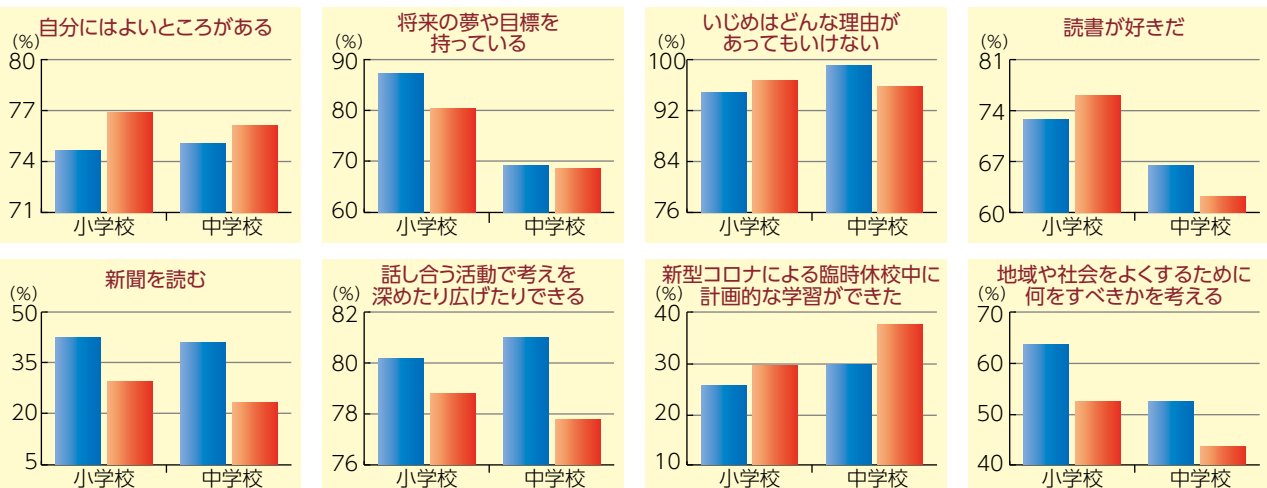
(2)中学校 平均正答率

	国語	数学
別海町	全国・全道より やや低い	全国・全道より 低い
全国	64.6%	57.2%
全道	65.0%	56.0%

※「低い・高い」…差が3%以上 「やや低い・やや高い」…差が1%以上3%未満 「同程度」…差が1%未満

3 生活習慣や学習状況などの状況

■別海町 ■全国 (肯定的な回答をした児童生徒の割合(%))



本調査の結果を受けて、各学校では日常的な教育活動の改善や校内研修の充実に取り組んでいるほか、別海町教育研究協議会教科等部会においても、授業方法などについての熱心な検討が繰り広げられています。また、9月に実施した元国立教育政策研究所学力調査官の榊山敏郎氏を招聘しての教育講演会には、町内約150名の教員が参加するなど、本町の教員の多くが積極的に日々改善を模索しています。

本町の子どもたちが社会との関わりの中で学ぶ意欲を持ち、たくましく生きるための健康や体力、自らを律しつつ他者と協調して社会をつくることのできる豊かな人間性をバランス良くそなえた「生きる力」を身に付けられるよう、学校、家庭、地域が一体となって本町教育のさらなる充実に向けていきますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。